

縁側

～母へ～

八代研究室

00212110

目黒 豊

縁側 段違い SPF

1. はじめに

この卒業制作は、ものづくり大学で学んだ知識・技術・経験を活かし母への感謝を表したものである。母の入学前からの願いであった「縁側」をテーマとして、実際に自宅に増設する。

2. 設計プロセス

2.1 文献調査

『日本語大事典』によると、縁側とは「和風住宅で、部屋の外周部に設け、廊下や出入口として用いる細長い板敷。外側に雨戸やガラス戸を立て戸外と仕切るものと、それをしない濡れ縁とがある」と記されている。また『日本のすまい』には「建物の周囲に建つ柱を側柱といい、側柱の外に出る縁を外縁、濡れ縁という。」と記述があり、本制作で、私の家には構造的に濡れ縁を採用する（写真1,2）。



写真1 清掃前



写真2 清掃後

2.2 設計

設計のコンセプトとして、普通の縁側にはしない。他人から見て「変わっているけど快適だ」と思われるものにする。風変わりかつ落ち着いたスペースの確保、縁側への昇りやすさ、外観を考慮し上段下段の材の向きを変え段違いにする（図1,2）。範囲の狭い中での制作になるため形が不恰好にならないよう水回りも縁側の一部に取り込み制作範囲を出来るだけ広くし、見た目の良い縁側にする（図3,4）。

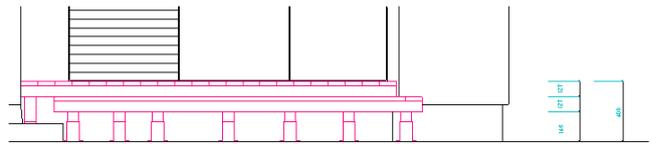


図1 南立面図

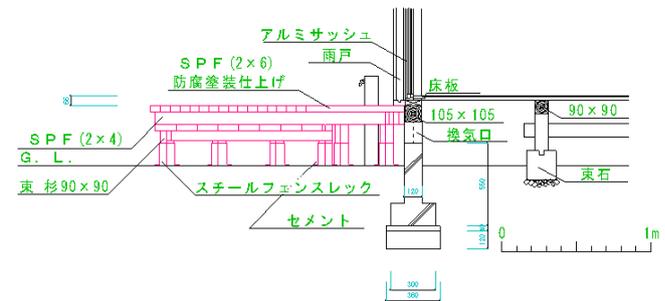


図2 矩計図

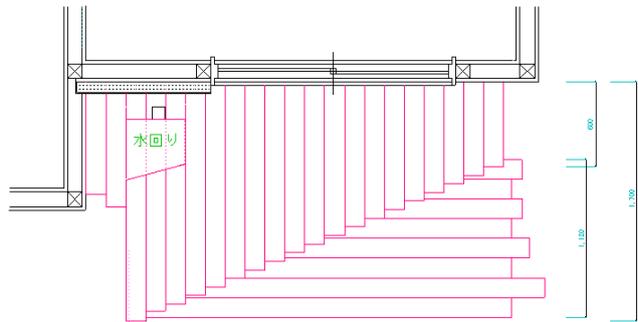


図3 平面図

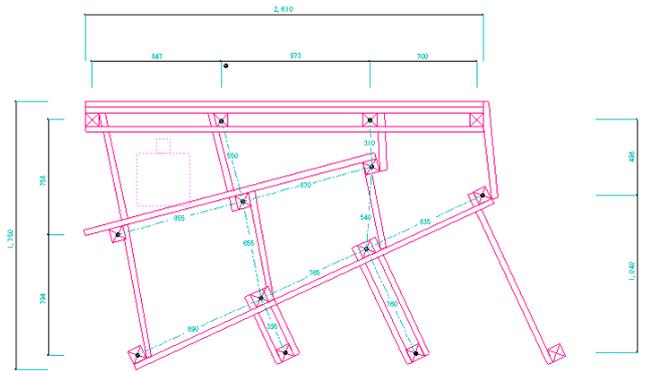
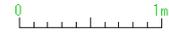


図4 根伏図



3. 制作プロセス

3.1 材料選定

材料を選定するにあたり、防虫、防腐効果に優れ、耐久性の高いものとして、アイアンウッドやウエスタンレッドシダー、セランガンバツなどの木材料などがあるが、今回の制作にあたり、一番のネックはコスト面である。そこで安値で、針葉樹の混成である SPF を使用することに決めた。

SPF は、Spruce (えぞ松)、Pine (松)、Fir (樅) の北米産針葉樹の頭文字をつないでつけられた名前前で、これら3種類が混在している。割れ易い、反り、節が多い、ヤニが大目などの問題があり水への耐性も高くないが、ローコストで防腐用塗料の併用で問題点を改善出来るため、屋外用工作物などに多く使用されている。そこで購入する際の注意点として、なるべく反りや曲がりがないものを選定する。

3.2 木材加工及び施工

3.2.1 塗装

上記したように防腐塗料の塗装が必要なため、ローラーで防虫、防腐、防水塗料を塗布する。木目のはっきりと出て仕上がりを良くする為に、1度全面に塗ってから布で拭きあげる。

3.2.2 墨付け・切断

SPF(2×6材, 38mm×140mm×3650mm)を12本購入し、必要な寸法に合わせて墨付けをし、丸ノコで切断する(写真3)。

3.2.3 基礎・土台作り

予め地盤がコンクリートだったため、整地をしない状態で土台作りに着手。住宅の基礎と東台との間隔を決め、住宅側に東台を並べ、東柱を端の2本根太へ固定する。(写真4)そして、住宅側の東柱を基準に水平・直角に根太を足していき大枠を作る。(写真5)根太には、防虫、防腐、防水加工済 SPF(2×4材, 38mm×89mm)を使用する。インパクトドライバーで留める際に水平が取れているか逐一確認する。(写真6)木ねじに関しては錆などの腐食を考慮しステンレス製のものを使用。

3.2.4 床張り・仕上げ

端から床板を、釘位置を揃えて根太へ固定するために木っ端を使い間隔を決め合わせる。(写真7,8)床板の固定には、木ねじでは入れすぎて水溜りができてしまうので釘を使用。釘もステンレス製として、抜けにくいスクリュウ釘を使用する。通気性や雨水が溜まることを防ぐため木ねじをスペーサー代わりにして等間隔に隙間を空ける。

4. まとめ及び反省点

縁側制作の結果、母に喜んでもらえたので、制作テーマである母への感謝を示すことが出来た(写真9)。今後は、庭にも手を加え母が快適に、そして優雅に過ごせる空間にしていく。



写真3 墨付・切断



写真4 束柱固定



写真5 根太まわし



写真6 根太完成



写真7 床板張り



写真8 釘位置固定



写真9 完成写真

【参考文献】

- 1) 『日本語大事典』講談社
- 2) エドワードSモース『日本のすまい～内と外～』鹿島出版会
- 3) 中川武『日本の家 空間・記憶・言葉』ToTo出版
- 4) 京極迪宏『和風建築の意匠 内と外をつなぐ』学芸出版社